Authority On Radio communications

AOR, LTD.
2-6-4 MISUJI
TAITO-KU, TOKYO 111, JAPAN
Telex: J29188 AORCOM
Fax: 03-865-1697／03-862-9927
Phone:03-865-1681

ＡＲ－３０００をお買上げ戴き有難う御座います。
取扱説明書に訂正箇所と注意事項があります。

訂正　取扱説明書、１０ページ、受信機の使い方（４）項に長い線のアンテナが付属している旨、記載されていますが、この箇所は削除します。
付属のアンテナはロッドアンテナ１本です。

メモリー：テストのため“ＢＡＮＫ　Ａ　００～９９ＣＨ”に周波数がメモリーしてあります。（モード、ステップも含む１００ＣＨ）新たにメモリーする場合は“ＢＡＮＫ　Ｂ／Ｃ／Ｄ”に入力して下さい。
注：ＢＡＮＫ　Ａに入力するとそのメモリーに書き変わります。

ご注意＊各種ＫＥＹ入力を行う場合は必ず取扱説明書に従って操作をして下さい。
もし誤った操作を行った場合はＫＥＹ操作が出来なくなる事もあります。

＊次のようなＫＥＹ操作はしないで下さい。
２ｎｄＦ＝＞ＣＬＯＣＫ．Ｓ＝＞ＭＯＤＥ＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＳＬＥＥＰ．Ｔ＝＞ＭＯＤＥ＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＡＬＡＲＭ．Ｔ＝＞ＭＯＤＥ＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＳＬＥＥＰ．Ｔ＝＞ＭＥＭＯ＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＣＬＯＣＫ．Ｓ＝＞ＭＥＭＯ＝＞０＝＞０＝＞０＝＞０＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＳＬＥＥＰ．Ｔ＝＞ＭＥＭＯ＝＞０＝＞０＝＞０＝＞０＝＞ＥＮＴ
２ｎｄＦ＝＞ＡＬＡＲＭ．Ｔ＝＞ＭＥＭＯ＝＞０＝＞０＝＞０＝＞０＝＞ＥＮＴ
アラームをセットした状態で電源プラグ（裏面４）外さないで下さい。
電源を外す場合はアラーム状態を解除して下さい。
アラーム解除のＫＥＹ操作　２ｎｄＦ＝＞ＡＬＡＲＭ．Ｓ

＊もしＫＥＹ操作不能状態になった場合は、下記のようにリセット操作を行って下さい。『注』リセット操作をすると各ＢＡＮＫのメモリーが消去されます。

ＡＲ３０００の電源スイッチをＯＮにしたまま、ＤＣ電源プラグ（裏面４）を抜いて、約５秒後に、再度、このプラグを接続して下さい。
再接続後、約５秒間でリセットが完了し、ＷＦＭ　８０ＭＨｚと表示します。

リセットが出来ない場合は再度、上記の操作を行うか、＊リセットスイッチを押して下さい。＊ＦＲＥＱ　ＰＡＳＳキーの裏側にあるＳＷ１、６本のビスを外し、上下ケースを取るとブザーの近くにある。

AR 3000 取扱説明書

取扱説明書

AR-3000を御買上げいただきありがとうございます。
本機を使用する前に必ず取扱説明書を読み正しくお使い下さい。

I 主な特長

独創の世界から生みだされた超広帯域、高精度、各種電波型式の受信能力と多彩な機能を組みこんだ究極の受信機です。

- 受信帯域は100kHz～2036MHzの超広帯域を連続して受信出来ます。
- 電波型式はNARROW FM／WIDE FM／AM／USB／LSB／CWと各種の電波モードに対応出来ます。
- PLLシンセサイザーの採用により周波数精度、安定度は大変優れています。
- 多数の周波数、電波型式をメモリー出来ます。最大400チャンネル。
- 見やすいLCDで多くのメッセージを表示します。
  又、夜間はグリーン色のバックライトで一層見やすくなります。
- 多彩な機能、20種以上の機能が組込まれています。
- 使い易いKEY、分かりやすいダイレクト操作。
- 最新のサーキット、独創的テクノロジーと優秀電子部品との構成により高性能な受信機となりました。
- 外部パソコンとの通信用のI／O RS-232を装備しました。

II 安全上のご注意

この受信機はDC（直流）12Vでお使いください。コードは附属の専用コードを必ずお使いください。又電灯線電源（AC100V）でお使いの時は専用ACアダプターを必ずお使いください。他の物を使用しますと事故の原因になります。尚ACアダプターを使用して受信機を長い間使用しない時はコンセントからACアダプターを抜いてください。又受信機の内部に液体や異物を入れないでください。
特に電源ジャックには注意してください。

III 取扱上のご注意

受信機の置き場所について次の点に充分ご注意ください。

○直射日光が長時間あたる場所や暖房器具の近くなど、温度が非常に高い（60°C以上）所での使用、放置等は避けてください。
特に窓を閉めきった自動車内などに直射日光があたったまま放置すると、季節により100°C以上になる事がありケースやその他が変形したりして故障の原因になります。又水や液体がかかる所、湿気の多い所、ほこりの多い所等も避けてください。

○受信機が汚れたときは柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン等の化学薬品は受信機の表面を破損しますので使用しないでください。

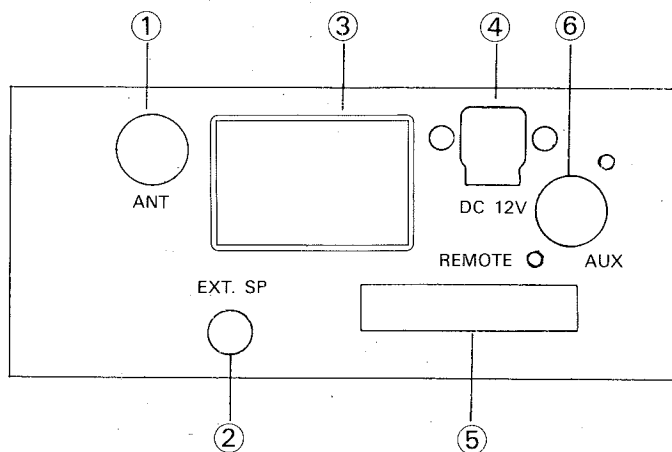
○遠くの電波や弱い電波をお聞きになる時は外部アンテナを使用してください。当社ではオプションとして外部アンテナを用意しています。又外部アンテナを設置する場合は附近の電灯線、電話線その他の建物等に注意して設置して下さい。

○尚、日本国の電波法では特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在又は内容を漏らしたり窃用は禁止されています。

Ⅳ各種KEYの名称

1. 電源スイッチ
2. スケルチコントロール
3. 音量コントロール
4. ヘッドホーン端子
5. MODE (KEY. L)
6. SEARCH (SET)
7. DIAL (BEEP)
8. STEP (LAMP)
9. SHIFT (SET)
10. MEMO (BANK)
11. PRIO (ATT)
12. ENTER
13. DOWN
14. UP
15. ダイアルノブ
16. . (FREQ. PASS)
17. 2nd F
18. 1 (CLOCK)
19. 4 (CLOCK. S)
20. 7 (MEMO. DEL)
21. 0 (STEP. ADJ)
22. 2 (SLEEP. S)
23. 5 (SLEEP. T)
24. 8 (CH. PASS)
25. 3 (ALARM. S)
26. 6 (ALARM. S)
27. 9 (FREE SCA)

V 裏面各部の名称

1. アンテナコネクター　(BNC TYPE)
2. EXT. SP.　(外部スピーカー用ジャック)
3. LABEL　(モデル表示ラベル)
4. DC12V　(直流12Vの入力ジャック)
5. REMOTE　(RS-232C用コネクター)
6. AUX　(DINコネクター音声録音用)

Ⅵ ファンクションKEYの説明

この受信機は直接動作するKEY(オレンジ色)と二重式のKEY(白色)の二種に分かれています。
二重式の場合は、[2ND. F KEY] を押してから必要とするファンクションKEYを押して下さい。

[MODE]	電波型式の選択をする時に使います。選択はLCDに各モードが表示されますので同調ノブで希望するモードを選んで下さい。
[SEARCH]	サーチのON/OFFの時に使います。
[DIAL]	周波数を直接選択する時に使います。選択は同調ノブ又は、数字KEYで選びます。
[STEP]	ステップ周波数を選ぶ時に使います。50Hz〜100kHzまで自由に数字KEYより入力出来ます。
[SHIFT]	受信している周波数より決めた周波数を引いたり加えたりする時に使います。
[MEMO]	メモリーされているチャンネルの呼出しとメモリーチャンネルをスキャンさせる時に使います。
[PRIO]	スキャン.サーチ時に優先周波数のON/OFFに使います。尚、チャンネル00の周波数が優先周波数になります。
[ENTER]	周波数、電波型式、サーチ、チャンネルメモリー、周波数シフト、ステップ周波数等の入力に使います。
[DOWN] [UP]	チャンネル数、サーチの周波数等を上下にする時に使います。また、このKEYを一秒以上押し続けるとチャンネルスキャン、サーチがスタートします。

◎	周波数の同調、メモリーチャンネル選択、モードの選択等に使います。尚、このノブを引き上げますとステップ周波数が10倍になります。もう一度引き上げますと元に戻ります。
[0~9]	周波数の入力に使います。
[.]	MHz単位の後で入力します。但しステップ周波数の時はkHz単位となります。 151.1125MHzの時 [1] [5] [1] [.] [1] [1] [2] [5] ステップ 50Hz [0] [.] [0] [5]

セカンドファンクションKEYの説明

[2ND. F]	このKEYを押す事に依ってセカンドファンクションKEYを動作させます。必ずこのKEYを押してから白色KEYを押して下さい。
[KEY. L]	各種KEYの動作をストップします。
[(SEARCH)SET]	サーチする周波数帯を入力する時に使います。
[BEEP]	各種KEYを押した時に出る音（BEEP）音をON／OFFする時に使います。
[LAMP]	LCDのバックライトのON／OFFする時に使います。
[(SHIFT)SET]	シフト周波数を入力する時に使います。
[BANK]	BANK切換えの時に使います。

ATT	アンテナ入力の減衰器をON／OFFする時に使います。
CLOCK	時計表示をさせる時に使います。
CLOCK. S	時計の時間合わせに使います。
MEMO. DEL	メモリーされているチャンネルの周波数を消す時に使います。
STEP. ADJ	ステップ周波数の補正の時に使います。
SLEEP. S	おやすみタイマーセットの時に使います。
SLEEP. T	おやすみタイマーの時間設定に使います。
CH. PASS	メモリースキャン時に不要のメモリーチャンネルをPASSさせる為に使います。
FREQ. PASS	サーチ及びプログラムサーチの時、不必要の周波数をあらかじめ入れて置くと、その周波数は受信しません。
ALARM. T	目覚まし時計の時間設定に使います。
ALARM. S	目覚ましタイマーセットの時に使います。
FREE. SCAN	スキャン、サーチ動作時に電波の出ている所を5秒だけ受信して強制的に次のステップに移行させる為に使います。

Ⅶ受信機の使い方

1. 電源にDC（直流）12Vを正しく接続して下さい。
   AC（交流）アダプターを使用の時はコンセントにきちんと差し込んで下さい。
2. 電源スイッチをONする前にスケルチボリュームを時計方向の12時の位置にして下さい。又、音量ツマミも時計方向10時位にして下さい。
3. 電源スイッチを入れて次の事を確認して下さい。
   KEYLOCK、SERACH、PRIORITY、等がLCDに表示されていないか確認して下さい。
   もし表示されている場合は、取扱説明書のその箇所を参照して、この表示をOFFにして下さい。
4. アンテナをコネクターに接続して下さい。付属のアンテナで長い線の方は0.1—30MHzの時に使い、ロッドアンテナは30—2036MHzの時に使用して下さい。尚遠くの局を聞く場合は当社の別売アクセサリーDA-3000（屋外用アンテナ）をご使用下さい。無線の場合電波の入口であるアンテナが重要な役割を果たします。

以上で基本的操作が完了しましたので次は希望する周波数の受信方法を説明します。

ダイレクト選局について

1．AMの594kHzの場合(NHK東京第1放送)

A．[DIAL]

B．[MODE] LCDの表示がAMになる様に同調ノブで選ぶ [ENTER]

C．[STEP] [9] [ENTER] (9KHzステップ)

D．[.] [5] [9] [4] [ENTER]

E．LCDの表示は下記の様になります。

AM

0. 594.

MHz kHz

2．AM128.8MHzの場合(東京国際空港)

A．[DIAL]

B．[MODE] LCDの表示AM [ENTER]

C．[STEP] [5] [0] [ENTER] (50KHzステップ)

D．[1] [2] [8] [.] [8] [ENTER]

E．LCD表示は下記の様になります。

AM

128. 800.

MHz kHz

3. LSB 7.099MHzの場合（アマチュア無線局）

A. [DIAL]

B. [MODE] LCD表示がLSBになる様に同調ノブで選ぶ [ENTER]

C. [STEP] [.] [0] [5] [ENTER] (50Hzステップ)

D. [7] [.] [0] [9] [9] [ENTER]

E. LCDの表示は下記の様になります。

LSB

7. 099.

MHz kHz

4. NFM145.500の場合（アマチュア無線局）

A. [DIAL]

B. [MODE] LCD表示がNFMになる様に同調ノブで選び [ENTER]

C. [STEP] [2] [0] [ENTER] (20KHzステップ)

D. [1] [4] [5] [.] [5] [ENTER]

E. LCDの表示は下記の様になります。

NFM

145. 500.

MHz kHz

5．WFM82.5MHzの場合（NHK－FM東京）

A．[DIAL]

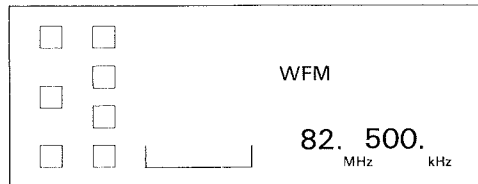
B．[MODE] LCD表示がWFMになる様に同時ノブで選ぶ [ENTER]

C．[STEP] [1] [0] [0] [ENTER]（100KHzステップ）

C．[8] [2] [.] [5] [ENTER]

D．LCDの表示は下記の様になります。

WFM

82. 500.
MHz kHz

6．WFM1691MHzの場合（気象衛星ひまわり）但しアンテナはパラボラ型使用の事）

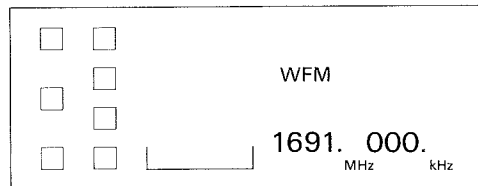
A．[DIAL]

B．[MODE] LCD表示がWFMになる様に同調ノブで選ぶ [ENTER]

C．[1] [6] [9] [1] [.] [ENTER]

D．LCDの表示は下記の様になります。

WFM

1691. 000.
MHz kHz

尚、MODE選択はUP DOWNのKEYでも選べます。

マニュアル選局について

受信したい局の周波数が正確に分らない時や、アマチュア無線の様にバンドが決められ、その中の局を探す時に使います。

例えば、21MHzのUSBを50Hzステップで受信する場合、

A．[MODE] USBを同調ノブで選び [ENTER]

B．[STEP] [0] [.] [0] [5] [ENTER]

C．[2] [1] [.] [0] [ENTER]

D．LCDは下記の様になります。

USB

21. 000.

MHz kHz

同調ノブでゆっくりと同調を取ります。この時、このノブを引き上げますと500Hzステップで同調します。LCDにSTEPと表示されます。又、UP/DOWN KEYでサーチする事も出来ます。1秒程UP/DOWN KEYを押しているとLCDにSEARCHと表示されサーチを始めます。

サーチをストップする場合は、

[DIAL]

メモリー入力の方法について

ダイレクト選局又は、サーチモードで受信した局をメモリーするには下記の様にして下さい。ダイレクト選局の場合、ダイレクト選局で選んだ後ENTERを押すとMCHがフラッシングしますので希望するチャンネルに入れます。

[0] [1] [ENTER]

尚、メモリーチャンネルは00～99までの100チャンネルがメモリー可能です。又この100チャンネルを4BANKメモリーが出来ますので、合計400チャンネルの周波数のメモリーが出来ます。

サーチモードで受信した局をメモリーする場合

A. [SEARCH] サーチが止まります。

B. [ENTER] MCHがフラッシングする。

C. [9] [9] [ENTER]

メモリー入力を中止する場合

A. [DIAL]

これでダイヤルモードに戻ります。

メモリーチャンネル呼出しについて

A. [MEMO]

同調ノブ又は、UP／DOWNキーで希望するチャンネルを呼出して下さい。

[9] [9] [MEMO] で直接チャンネルの呼び出しも出来ます。

メモリーチャンネルのスキャニングについて

A. MEMO UP 又は、DOWN を一秒位押して下さい。但しスケルチがONである事を確認して下さい。LCD表示にMがフラッシングをします。

メモリースキャニングを中止する場合

A. MEMO を押して下さい。

メモリーチャンネルの取消について

メモリーされているチャンネルが不要になって取消をしたい場合先ず、取消したいチャンネルに合わせ（メモリーチャンネル呼出しについて参照）

2ND. F MEMO. DEL

メモリーチャンネルのPASSについて

メモリーしたチャンネルでPASSをしたいチャンネルを選ぶ事が出来ます。先ず、PASSをするチャンネルを選び下記の様にします。

2ND. F CH. PASS

PASS解除の場合も同じです。

FREE SCANについて

SEARCH SCANで受信した信号を5秒だけ聞いて次のチャンネル

又は周波数に強制的に移動させるのがFREE SCANです。

[2ND. F] [FREE. SCAN] MHzとkHzの前の点が交互にフラッシングします。
中止の場合も同様です。
尚、FREE SCANをしていてもPRIOを押すとFREE SCANは中止となりますので注意して下さい。

SEARCHについて

この受信機は100kHzから2036MHzまで連続してサーチする事が出来ます。又、希望する周波数帯域だけも4組サーチする事が出来ます(各バンクに1ツあります)。尚、サーチする周波数間隔も50Hzから100kHzの間、自由に選べます。

1. ダイヤルモードからサーチする方法
594kHzから上側に9kHzでサーチする場合（中波帯放送受信）
A. [DIAL]
B. [STEP] [9] [ENTER]
C. [MODE] AMを選択
D. [.] [5] [9] [4] [ENTER]
E. [UP] 一秒位押す
LCD上にSERCH、AMと周波数が表示されてサーチをします。
中止する場合は [DIAL]
尚、サーチしている時、同調ノブを引きますと周波数間隔が10倍になります。9kHzの時は90kHzになります。LCD上にSTEPが表示されます。

2. 受信周波数帯を決めてサーチする方法（プログラムサーチ）
350MHzから400MHzを12.5kHz間隔でNFMをサーチする場合
A. [2ND. F] [SEARCH. SET] 同調ノブでLCD表示のNFMを選ぶ [ENTER]
B. [1] [2] [.] [5] [ENTER] を押すとCH表示の所にLと表示されますので低い周波数を入力して下さい。
C. [3] [5] [0] [.] [ENTER] を押すとCH表示の所にHと表示されますので高い周波数を入力して下さい。
D. [4] [0] [0] [.] [ENTER]
これで自動的にサーチします。中止する場合 [SEARCH]
再度サーチする場合 [SEARCH] 又、LCDのPの表示はプログラムサーチの表示です。
3. ダイヤルサーチ周波数を残して置きたい場合はプログラムサーチを止める時に必らずDIALを押して下さい。
SEARCH KEYを押しますと、プログラムサーチの周波数がダイヤルサーチの周波数になってしまいますので注意して下さい。

BANKについて

この受信機にはメモリーチャンネル、100チャンネル、プログラムサーチ1つを組としたBANKを4BANK用意しています。
全部違ったメモリー周波数やプログラムサーチを組めますので、あたかも4台の受信機を使用している様に色々の使い分けが出来ます。
尚、BANKの選び方は下記の通りです。
[2ND. F] [MEMO. BANK]

M BANKと書いてある所のLEDが付いた所が目的のBANKです。もし希望するBANKにいかない時は上記の動作を行って目的のBANKに合わせて下さい。

STEP周波数について

周波数を変化させる時の周波数間隔を言います。AR-3000は50Hz〜100kHzの間を自由に選べます。

1．25kHzのSTEPを選ぶ場合
   [STEP] [2] [5] [ENTER]
2．50Hzの場合
   [STEP] [.] [0] [5] [ENTER]

SHIFTについて

この受信機は受信周波数に対して決められた上下の周波数にワンタッチで移行することが出来ます。中継局のチェックの時に便利です。

例えば、−5MHzをシフトする場合
[2ND. F] [SHIFT. SET] [DOWN] [5] [.] [ENTER]
+5MHzをシフトする場合
[2ND. F] [SHIFT. SET] [UP] [5] [.] [ENTER]
SHIFTを押しますと受信周波数より自動的に上側が下側の周波数に移行します。
（LCD上にSHIFTと表示されます。）
又、SHIFTを押しますと元に戻ります。

PRIORITYについて

この受信機には優先チャンネル(PRIORITY)が設けられています。常時、受信していたい周波数と電波型式をチャンネル00に入力してPRIOのKEYを押しますとLCD上にPRIOと表示され2秒に1回00チャンネルに信号があるか調べ、信号のある場合は他の周波数を聞いていても強制的に00チャンネルを開く様になります。中止する時もPRIOを押します。

KEY LOCKについて

動作中の受信機を間違って動作させない為に各種KEYをロックする事が出来ます。

[2ND. F] [KEY. L] LCD上にKEY LOCKを表示します。

中止の場合も上記と同様の操作をします。

BEEP音のON／OFFについて

KEYを押した時に出る音を消す事が出来ます。

[2ND. F] [BEEP]

もう一度押しますとBEEP音が出ます。

LCDのバックライトのON／OFFについて

LCD表示の照明のON／OFFは下記の様に操作します。

[2ND. F] [LAMP]

ATTENUATORについて

外部アンテナを使用した時、時として受信地点の近くに送信所があったり、受信周波数の近くに強い電波がありますと受信機が妨害を受ける事があります。その様な時にこのKEYを使用します。

[2ND. F] [ATT] (LCD上にATTが表示されます)

中止する場合も同じです。

尚940MHz以上はATTは表示しますが、動作はしません。

FREQUENCY PASSについて

受信したくない周波数や受信機内部の妨害電波等をメモリーしておく為に使います。

尚、ダイレクト選局、マニュアル選局の時はPASSしません。

[2ND. F] [FREQ. PASS] (LCD上のPASSが点滅します。)

[4] [5] [.] [9] [4] [5] [ENTER]

CHの所が01となりますから次の周波数を入力します。尚、このメモリーは00～47チャンネルの周波数までメモリーが出来ます。

取消の場合は周波数0を入力します。

[2ND. F] [FREQ. PASS]

[0] [0] [ENTER] 多数入力されている場合は、この動作をくり返します。

尚、PASS周波数を調べる時は

[2ND. F] [FREQ. PASS] [ENTER]

00から周波数が出て来ますから入力してある周波数を必ず全部調べて下さい。途中で中止しますと周波数PASSは出来ません。ENTER KEYを次から次と押して最後のメモリー周波数まで動作をくり返して下さい。

ステップアジャストについて

今迄の受信機は、例えば25kHzステップで下記の周波数からサーチをするとAの様になる。このステップアジャストをONにするとBの様に周波数が変化をします。

A．903.0125（25kHzステップ）903.025、903.050、
903.075、903.100

B．903.0125（25kHzステップ）903.0375、903.0625、
903.0875、903.1125

（スタートした周波数から確実にステップ周波数だけ上下して行きます。）

2ND. F　STEP. ADJ　（kHzのところがフラッシングします。）

取消の場合

2ND. F　STEP. ADJ　（kHzがつきっぱなしになります。）

同調ノブについて

DIAL MODEの時は右に廻すと高い周波数に行き、左に廻すと低い周波数に移行します。メモリーチャンネルの時は、右はチャンネルの上側に、左は下側のチャンネルを選びます。尚、このノブを引き上げますとステップ周波数が、10倍になって早く周波数を動かす事が出来ます。

受信機の内部の不要輻射について

スーパーヘテロダイン方式の為下記に示す周波数は自己電波妨害に依って受信が出来ません。
1.59MHz. 3.18MHz. 12.58MHz. 16.78MHz.
20.97MHz. 76.8MHz. 89.6MHz. 96.0MHz.
102.4MHz. 108.8MHz. 115.2MHz. 123.58MHz.
140.34MHz. 153.6MHz. 170.36MHz. 200.38MHz.
230.4MHz. 370.74MHz. 400.78MHz. 430.78MHz.
460.8MHz.

信号強度の表示について

LCD上で信号の強さを表示しています。バーグラフで1—9まで表示しています。信号入力の強さは下記の通りです。
1…………1uv
7…………30uv
9………300uv
尚この信号強度は、完全ではありませんので目安としてお使い下さい。

音声の自動録音について

AUX端子を使用しますと、テープレコーダーに音声が自動録音が出来ます。受信機より音声が出力されると自動的にテープレコーダーを作動させて音声を録音します。尚テープレコーダーにリモート端

子の有ることが必要です。
別売アクセサリーのCR-400を用意しています。

時計について

時計の表示は24時間表示となっています。
　10－24－25は午前10時24分25秒
　18－45－00は午後06時45分00秒
セット動作中に時計表示したい場合は
　[2ND. F] [CLOCK] この時セットは動作中ですので他の表示は出ます。
午前7時20分20秒に合わせる時
　A. [2ND. F] [CLOCK. S]
　B. [0] [7] [2] [0] [2] [0] [ENTER]
午後6時30分00秒の時
　A. [2ND. F] [CLOCK. S]
　B. [1] [8] [3] [0] [0] [0] [ENTER]
尚、時計表示は電源スイッチをOFFにしてもACコードが電灯線に接続されていれば表示しています。

アラーム／スリープについて

本機には、おはようタイマー（電源ON）とおやすみタイマー（電源OFF）の2種がセット出来ます。

アラームの設定方法（おはようタイマー）

[2ND. F] [ALARM. T]

[0] [6] [0] [0] 午前6時の場合 [ENTER]

[2ND. F] [ALARM. S] ALARMのLEDがつきます。

これで電源スイッチを切ります。LCDに時間とALARMと表示されます。時間になると受信機に電気が入り動作します。この時通常より、音量が大きくなります。又このままですと1時間後には電源が自動的に切れます。

ます。時間になると受信機に電気が入り動作します。

解除する場合（電源をONにして）

[2ND. F] [ALARM. S]

スリープの設定方法（おやすみタイマー）

1分から120分までのスリープタイムを設定出来ます。

[2ND. F] [SLEEP. T] LEDにSLEEPとフラッシングします。

[3] [0] [ENTER]（30分後に電気が切れる設定）

動作は下記の通りです。

[2ND. F] [SLEEP. S] SLEEPのLEDがつき、その後電源スイッチをOFFします。

取消の場合は

[2ND. F] [SLEEP. S]

リモートコントロールについて

この受信機はパーソナルコンピューターの通信用インターフェースRS-232を通してパーソナルコンピューターでコントロールする事が出来ます。尚RS-232Cのコネクターの脱着時は必ず電源を切って下さい。
先ず、パーソナルコンピューターをターミナルモードにして次の様に設定して下さい。

ボーレート	4800BPS又は9600BPSも切換可
ビット数	8BIT
STOP BIT	2
PARITY	NON
XON	NON

以上でパーソナルコンピューターと受信機はつながりました。
パーソナルコンピューターから受信機をコントロール出来るのは下記のものです。

1. '0～9' 迄の数字
2. '.' (MHz周波数の入力、kHzステップ周波数の入力)
3. 'A' (AMモードの入力)
4. 'N' (NFMモードの入力)
5. 'W' (WFMモードの入力)
6. 'L' (LSBモードの入力)
7. 'U' (USBモードの入力)
8. 'C' (CWモードの入力)
9. 'R' (ATT ONの入力)

10. 'T'（ATT OFFの入力）
11. 'M'（メモリーチャンネルの入力）
12. 'Z'（メモリーチャンネルのセレクト〈メモリーに入っている周波数は読び出せない〉）
13. 'X'（BANKの切り替え）

データー入力の方法は

[M-CH] − [ATTの有無] − [受信周波数] − [電波型式]

例えば、

1. 128.80A……………………128.80MHzのAMモード
2. 82.50W……………………82.50MHzのWFMモード
3. 01M R82.5W……………82.50MHzのWFMモード、ATTはON、メモリーチャンネル01に入力、
4. 99M T 21.0U……………21MHzのUSBモード、ATT OFF、チャンネル99、

尚受信機より、信号強度の表示用としてA B C D E F G H I J K L M N Oの15段階の符号が送り返されます。
スケルチがONの時は%の符号が出ます。

データーの出力方法

[M-CH] Z

例えば、③で入力した82.5MHz WFMの局を呼出しする場合

01 Zとなります。

バニク切替えの方法

X (0→1→2→3→0→1→2→3→0……)

パーソナルコンピューターからの入力についての注意事項

1. 入力の最後はMODEのA、N、W、L、U、C、が有効です。
2. 入力の順序は前述の通りです。但し、ATTのON／OFFはMODEの前ならば何時でも可能です。
3. メモリーチャンネルがデフォルトの時はメモリーに入りません。
4. メモリーチャンネルの入力は2桁の数字が必要です。
5. ステップ周波数がデフォルトの時は現在の値が有効となります。
6. ステップ周波数は50Hz単位で最高100kHzです。
7. ATTのON／OFFがデフォルトの時は現在の値が有効となります。
8. 受信周波数がデフォルトの時は現在の値が有効となります。
9. Zでメモリー出力を行った時、該当チャンネルにメモリーがない時はデーターのあるチャンネルまで進んで出力します。
10. XでBANK切替えを行っても受信機上のBANKの表示(LED)は変化しません。

尚、コンピューターで受信機をコントロールしますと、コンピューターノイズが受信機に入りますので、受信機を離すか、外部アンテナを使用して下さい。

Ⅷ電気的特性

受信周波数………………100KHz—2036MHz.
受信モード………………USB, LSB, CW, AM, NFM, WFM.
受信方式…………………トリプルスーパーヘテロダイン.
　　　　　　　　　　　クォドラプルスーパーヘテロダイン(WFM).
受信感度…………………

モード／周波数	10dB S/N		12dB SINAD	
	SSB/CW	AM	NFM	WFM
0.1—2.5M	1.0uV	3.2uV	—	—
2.5—1.8G	0.25uV	1.0uV	0.35uV	1.0uV
1.8—2.0G	0.75uV	3.0uV	1.25uV	3.0uV

受信選択度………………2.4KHz —6dB　USB, LSB, CW.
　　　　　　　　　　　12KHz　—6dB　AM, NFM.
　　　　　　　　　　　180KHz—6dB　WFM.
アンテナインピーダンス‥50オーム　BNC型
メモリーチャンネル数…400チャンネル
スキャン速度……………20チャンネル秒
サーチ速度………………20ステップ秒
オーディオ出力…………1ワット（4オーム10%歪）
電源電圧…………………13.8ボルトDC
表示方式…………………液晶表示
付属品……………………ACアダプター, DCコード, アンテナ2種類,
　　　　　　　　　　　取扱設明書, 保証書.

製品の規格及び外観は改良のため予告なく変更する事があります。

Ⅸ別売アクセサリー

1. DA-3000　　ディスコーンアンテナ。
   屋外用　最長エレメント　104cm、15メータ同軸ケーブル、
   及びコネクター付。
2. MA-500　　モービルアンテナ。
   マグネット 取り付け式、自動車用アンテナ。エレメント長70cm
   4メーター同軸ケーブル及びコネクター付。
3. MM-1　　モービルマウント。
   自動車ダッシュボード用取り付けマウント。ワンタッチ着脱式。
4. DA-1000　　パラポラアンテナ。
   屋外用パラポラアンテナ、直経90cm。
   気象衛星ひまわり受信用、ゲイン18dB以上。
5. LA-3000　　ローノイズアンプ。
   気象衛星ひまわりの周波数（1691MHz）を増幅する、高周波
   AMP。ゲイン30dB，NF 1.5dB以下。
6. CR-400録音用コード
   音声自動録音用コード
7. LA320 ループアンテナ
   室内用小型高周波増幅付アンテナ

X 故障とお考えになる前に

受信機の調子の悪い場合、修理に出す前にもう一度下記の事を点検願います。

1．電気が入らない場合
- ・電源プラグが奥まで差込れていますか。
- ・ACアダプター使用の場合はコンセント側の差込にしっかり入っていますか。
- ・電源コードの⊕⊖が逆に接ながっていませんか。

2．音が出ない場合
- ・電源スイッチがOFFになっていませんか。
- ・音量ツマミが最小の位置になっていませんか。
- ・スケルチボリュームを反時計方向いっぱいに回わしてもザーと言う音が出ませんか。
- ・外部スピーカージャックにイヤホーンその他のプラグが差込れていませんか。

3．操作して動作しない場合
- ・DIAL KEYを押してください。次に色々の入力をしてください。
- ・スキャン・サーチ等がしない場合はスケルチのボリュームを時計方向一杯に回して下さい。